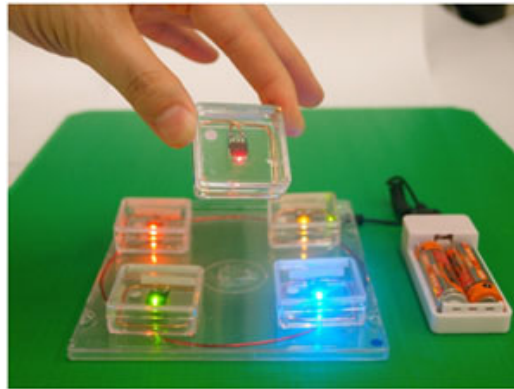
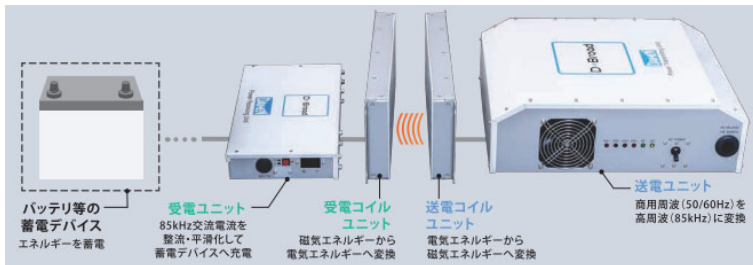


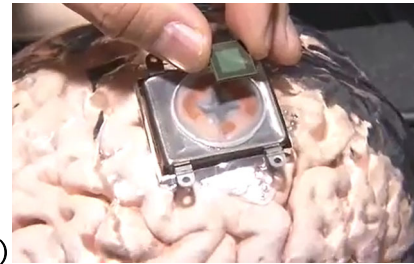
# ■ ワイヤレスパワーマネジメント(WPM) コンソーシアム



(原理試作)



(産業機器)



(脳波計)

<http://wpm-c.com/>

●お申込み先(WPM-c連絡先)

細谷達也: [hosotani@murata.com](mailto:hosotani@murata.com)

鈴木克佳: [Katsuyoshi\\_Suzuki@mb4.nkc.co.jp](mailto:Katsuyoshi_Suzuki@mb4.nkc.co.jp)

横井行雄: [yokoiyukio@jcom.zaq.ne.jp](mailto:yokoiyukio@jcom.zaq.ne.jp)

## 1. WPM-cについて

ワイヤレスパワーマネジメントコンソーシアム(WPM-c)は、2013年にワイヤレス給電の普及を目的に発足しました。当初は、株式会社社村田製作所が開発した「直流共鳴方式ワイヤレス給電」を中心に、主として、ワイヤレス給電技術情報の提供と応用商品への適用の可能性を追求する活動を行ってきました。2017年以降は、ワイヤレス給電を用いた新たなアプリケーション分野の創出と、具体的な応用商品検討に軸足を移した活動を行っています。

10年の活動実績を経て、2023年に京都大学を所在地として、一般社団法人共創事業開発協会(CBDA)を設立し、傘下にWPM-cを移設して、一新した新体制にて活動を活発化させています。CBDAは、異なる立場や業種などの人や団体が協力して新たな価値や商品などをつくる共創活動により、新しい事業の開発を推進し、産業や学術や科学技術の発展に貢献します。新体制では、WPM-c事業企画として3大プロジェクトを始動しています。①「WPM-cプロファイル」、②「WPM-c製品分解調査」、③「WPM-c給電カフェテリア」の3つのプロジェクトをWPM-c事業として推進しています。

WPM-cは、1つのチームを形成し、未来社会を創ります。材料・デバイス、回路システム、ビジネスや新しいサービスに至る幅広い課題に取り組み、豊かな社会の持続的発展に貢献します。仲間を増やし、新たな価値や商品をつくる共創事業開発を推進し、会員企業の発展や国際競争力の強化を進め、情熱をもって行動します。

## 2. 目的

直流共鳴技術を始めとするワイヤレス給電の普及を推進する。ワイヤレス給電に関係する共創事業開発を推進し、産業や学術や科学技術の発展に貢献する。未来社会を描き、会員企業の発展や国際競争力の強化を図る。

## 3. WPM-cの強みと会員募集 (初年度入会金3万円、年会費15万円)

WPM-cは、10年以上の活動実績があります。1)WPM-cシステム規格書、2)WPM-c設計データ(原理試作回路図、部品表、CADデータ)など、豊富な情報やデータを備えます。ワイヤレス給電関係事業の成功の鍵は、①実現性、②事業性、③知的財産権です。一企業で進めるには、負荷とリスクが過大です。WPM-cでは、①多数の開発事例、②事業実績、③豊富な知的財産権を扱っています。優れた技術や事業をもつ会員、WPM-cを利用してワイヤレス給電事業を起業展開する会員、ワイヤレス給電の基本特許と350件を超える登録特許を保有する会員、業界初の医療ワイヤレス給電を用いた臨床試験を進める会員、電子機器や5G基地局や電気自動車の分解やコスト分析を手掛ける会員など、強みをもつ多様な企業が集まり、協力して事業拡大を進めています。

WPM-cは、WPM-cの強みや会員企業の強みや日本発の知財ファンド運営などを活用して、会員企業でのビジネスの成功を目指します。共創事業開発を推進し、事業の拡大や自社への貢献を進めていきましょう。

#### 4. 主な事業活動

- (1) 会員同士の交流(総会講演会3-4回/年程、交流会や見学会1回/年程)
- (2) ワイヤレス給電プロジェクトの実施
  - 1) 「プロファイル」プロジェクト : 試作、開発、製品など事業化集約ファイルの作成と活用。
  - 2) 「製品分解調査」プロジェクト : 製品の分解調査や分析の実施とベンチマークの情報共有。
  - 3) 「カフェテリア」プロジェクト : 社会実証や展示出展。スタートアップやベンチャー支援。
- (3) ワイヤレス給電イベント(学会との合同特別企画)の実施(1回/年程)
- (4) ワイヤレス給電技術セミナーの実施や優待
- (5) ウェブサイトの運用
- (6) 関係学会および協会との共催、協賛、後援

#### 5. 会員のメリット

- 新たな価値や商品をつくる共創事業開発により、新しい事業の開発を推進できる。
- 共創事業開発の推進により、産業や学術や科学技術の発展に貢献できる。
- 未来社会を描き、会員企業の発展や国際競争力の強化を進められる。
- 会員は、会員相互の「共創の場」(共創と信頼)に対する権利を得て、責任を負う。
- WPM-cワイヤレス給電3大プロジェクトに参加できる。
- ワイヤレス給電に関係する技術、製品、市場などの重要情報を入手できる。
- ワーキンググループ活動(スマート製品,モビリティ,メディカル,宇宙など)に参加できる。
- ワイヤレス給電に関係する情報などを会員と共有でき、開示した機密情報は守られる。
- 会員企業の発展や課題解決のため、会員からの協力や支援を受けることができる。
- 会員企業が有する課題解決に向けて、有識者や学識者の助言や支援を得ることができる。
- 「学びの場」として、第三者団体が運営するセミナーを優待割引で受講できる。
- 「(一社)ワイヤレス電力伝送実用化コンソーシアム」(マイクロ波送電)と連携できる。

#### 6. 組織体制

代表	篠原 真毅	京都大学 生存圏研究所 教授
代表幹事 (科学技術顧問)	細谷 達也	株式会社村田製作所 技術・事業開発本部 デバイスセンター プリンシパルリサーチャー、名古屋大学 客員教授
幹事	鈴木 克佳	日本光電工業株式会社 荻野記念研究所 開発部 Iプロジェクト 課長
幹事	鶴田 義範	株式会社ダイヘン 技術開発本部 インバータ・充電技術開発部 部長
幹事(窓口)	横井 行雄	(公社)自動車技術会 ワイヤレス給電システム技術部門委員会 幹事

#### 7. 設立趣旨(2013年4月設立)

「直流共鳴」方式を主とするワイヤレス給電の実用化と標準化を目的とするコンソーシアムを設立する。「ワイヤレス」であることの価値が高い多様な利用シーンや用途に応じて、利用者にとってより価値の高い製品展開を進め、ソリューションの提案やエレクトロニクス社会における新しい価値創造を目指す。会員とともに、具体的な取り組み活動を通して、情報共有や技術融合を行う。①マーケット(市場)を分析し、②テクノロジー(技術)を高め、③プロダクト(製品)の展開を図る。会員相互の信頼と協調による「共創の場」を構築し、ワイヤレス給電事業の発展と成長を目的として継続的な活動を展開する。

#### 8. これまでのWPM-c参加団体(抜粋)

WPM-cでは、これまで60社以上の企業や機構が会員として、WPM-c活動に参加しています。

株式会社村田製作所、日本光電工業株式会社、株式会社ダイヘン、株式会社フォーマルハウト・テクノ・ソリューションズ、特定非営利活動法人新共創産業技術支援機構(ITAC)、コニシセイコー株式会社、ユーテック株式会社、マツムラ電子工業株式会社、株式会社大日電子、伊藤忠商事株式会社、アングス電気株式会社、株式会社ビービーシステム、株式会社共創、船井電機株式会社、篠原電機株式会社、シャープ株式会社、岡本無線電機株式会社、株式会社東海理化電機製作所、三菱電機株式会社、株式会社ホンダアクセス、株式会社フジクラ、株式会社アドバンテスト、株式会社エネゲート、ホシデン株式会社、高槻電器工業株式会社、株式会社電通、アンシスジャパン株式会社、豊田合成株式会社、戸田建設株式会社、株式会社エヌエフ回路設計ブロック、横河メータ&インスツルメンツ株式会社、ソフトバンクモバイル株式会社、ココヨマーケティング株式会社、コーセル株式会社、株式会社タケチ、日特エンジニアリング、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、日本電信電話株式会社、株式会社森創、新藤電子工業株式会社、タイガー魔法瓶株式会社、ナブテスコ株式会社、北陸電気工業株式会社、旭光電機株式会社、株式会社ビー・アンド・プラス、パワーサプライテクノロジー株式会社、ツカサ電工株式会社、藤倉化成株式会社、凸版印刷株式会社、株式会社ユニバーサルビュー、株式会社オーディオテクニカフクイ、株式会社テーケーアール、アイホン株式会社、日東電工株式会社、タカノ株式会社、大井電気株式会社、東特巻線株式会社、富士ファイン株式会社、NTN株式会社、三菱ケミカル、アンプレット通信研究所、高周波熱錬株式会社。  
※入会時の名称を記載している場合があります。また、目的達成後に退会された企業を含みます。